

遠野地区交流会報告 (遠野市広報に掲載)

日時：2025年5月26日(月) 10:00～12:00

場所：遠野地区福祉センター会議室

参加：支部長 端坂 副支部長 佐藤 遠野地区世話人 菊池正晴 佐々木定則

一般参加：7名 他9名 合計20名

内容：

1. 世話人挨拶(菊池正晴)
2. 簡単リハビリ体操
3. 岩手県支部長挨拶(端坂則喜)
4. パーキンソン病と共に生きるために必要なこと(端坂則喜)

根治療法がない進行性の難病だが、先日、NHKで放送された「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療 治験で有効性 京都大」など根治に向けた研究、治験が盛んに行われている。また、早期に正確に確定診断できるように血液検査で診断できる方法も開発中である。

数年前に保険適応された新しい薬が治療に使われるようになっている。パーキンソン病は適切な治療を受け、積極的にリハビリを行うことで病状の悪化を最小限に抑えることができ大きな支障なく日常生活が送れる病気である。

- 病気を知ること
- 自分の症状を知ること
- 主治医に自分の症状を正確に伝える

ことが自分にあった治療を受けるために必要であると資料を用い、自身の経験をもとに説明した。

質疑応答

- パーキンソン病は遺伝するのか？
5%～10%程度の確立で遺伝性の可能性があると言われている
- 母がパーキンソン病だが、妄想、幻覚があり対応に困っている。どうしたら良いか？
人様に迷惑をかけるような妄想、幻覚の場合は主治医に伝えて服薬調整してもらう必要があるが、本人または家族が妄想、幻覚との認識がある場合は深刻に考えず、家族も本人のいうことを否定せずに受け流せばよいと思う

- 自分の症状を主治医にうまく伝えられない。どうすればよいか？
本日の資料2「状態記録表」を使うことを勧めます。自分の症状を把握できるし、主治医に見せることで「良い、悪い」などの曖昧な情報でなく、薬の効果時間や薬の効果が切れている時間ができるような処方になっていないかなど主治医が必要とする情報を伝える（主治医が読み取る）ができ、適切な処方に役立つと思います。
- 最後に端坂から「くよくよせず、楽しく、前向きに生きましょう」そのためには、このような同病者の交流が大事です。と伝えた

入会の案内（佐藤副支部長）

私も「パーキンソン病」と診断された直後は人に会いたくなく、引きこもっていた。そのような状態の時に会の存在を知り、入会した。同病者と交流することで「ひとりでない」「仲間がいる」とパーキンソン病と前向きに付き合えるようになった。

今は副支部長という立場で支部長と各地をまわっている。参加者と話すことで新しい発見があり、勉強させてもらっている。